

# 2023年12月期第2四半期 決算説明会

片倉工業株式会社

(コード：3001 東証スタンダード)

2023年8月31日

## 1. 2023年12月期第2四半期 決算概要

連結損益計算書

連結損益計算書／セグメント別実績

連結貸借対照表

連結キャッシュフロー計算書

## 2. 2023年12月期 通期業績予想

連結損益計算書／通期予想

## 3. セグメント毎の重点課題

医薬品事業について

繊維事業について

機械関連事業について

不動産事業について

新規事業について

人的資本拡充に向けた取り組み

コーポレートガバナンス

## 4. 株主還元について

# 1. 2023年12月期第2四半期 決算概要

(単位：百万円)	2023.1-6実績	2022.1-6実績	前期増減	2023.1-6予想	予想との差異
	A	B	A-B	C	A-C
売上高	<b>20,616</b>	17,164	3,452	20,400	216
営業利益	<b>2,104</b>	14	2,090	1,450	654
営業利益率	<b>10.2%</b>	0.1%	10.1pt	7.1%	3.1pt
経常利益	<b>2,726</b>	639	2,087	2,100	626
特別利益	<b>671</b>	1,097	▲ 426	—	—
特別損失	<b>567</b>	—	567	—	—
税引前利益	<b>2,829</b>	1,737	1,092	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	<b>1,982</b>	1,631	351	1,399	583

### 【売上高・営業利益】

- 増収増益（詳細は次ページ）

### 【特別利益】

- 固定資産売却益 ▲461M（前期461M→当期なし）

### 【特別損失】

- 割増退職金 +567M（前期なし→当期567M）

### 【売上高・営業利益・経常利益】

#### ■ 前期対比

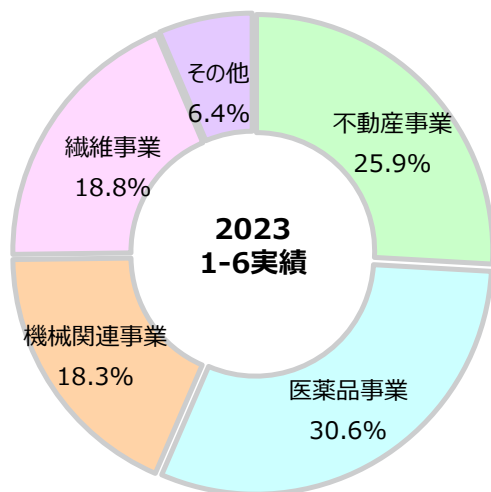
医薬品事業における「自社販売体制への商流切り替えのための一時的な販売減からの回復」などにより増収・増益。

#### ■ 予想対比

不動産事業の一部修繕の後ろ倒しや「コクーンシティ」の売上好調推移、繊維事業では機能性繊維の高付加価値製品の販売好調により、営業利益以下の各段階利益は、予想を上回る。

(単位：百万円)	2023.1-6実績		2022.1-6実績		前期増減	
	A		B		A-B	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
不動産事業	5,341	2,160	5,142	2,004	① 199	156
医薬品事業	6,306	▲ 197	3,605	▲ 1,995	② 2,701	1,798
機械関連事業	3,780	185	4,265	75	③ ▲ 485	110
繊維事業	3,884	425	3,350	269	④ 534	156
その他	1,303	107	800	113	⑤ 503	▲ 6
調整額	-	▲ 576	-	▲ 452	-	▲ 124
合計	20,616	2,104	17,164	14	3,452	2,090

セグメント別売上高構成比


**①：不動産で増収・増益**

- ・ ショッピングセンター「コクーンシティ」におけるテナントからの賃料収入の増加により増収・増益

**②：医薬品で増収・増益**

- ・ 前期の自社販売体制への商流切り替えのための一時的な販売減からの回復により大幅な増収・増益

**③：機械関連で減収ながらも増益**

- ・ 消防自動車事業で、車載用半導体の不足等によるシャシ(※)の入庫遅れにより減収
  - ・ 売上時期の繰越により閑散期の生産性が向上し、増益
- (※)：自動車のエンジン、シャシフレーム等走行に係る基本部分（車体）をいう。

**④：繊維で増収・増益**

- ・ 実用衣料の肌着及び耐熱性繊維等の機能性繊維が堅調に推移したことにより増収・増益

**⑤：その他で増収ながらも減益**

- ・ 第1四半期連結会計期間より新規連結した東近紙工(株)及び第2四半期連結会計期間より連結子会社化した(株)カタクラ・クロステクノロジー（旧・(株)FPGテクノロジー）の寄与により増収

# 連結貸借対照表

(単位：百万円)		2023.6	2022.12	前期増減
		A	B	A-B
流動資産		56,428	56,379	49
固定資産		85,363	81,734	3,629
	投資有価証券	37,837	34,408	3,429
	資産合計	141,791	138,114	3,677
負債合計		51,999	53,638	▲ 1,639
	支払手形及び買掛金	4,474	4,823	▲ 349
	借入金	12,726	13,912	▲ 1,186
	その他流動負債	6,813	7,447	▲ 634
	繰延税金負債	10,914	9,698	1,216
	退職給付に係る負債	2,040	2,459	▲ 419
純資産合計		89,792	84,475	5,317
	利益剰余金	51,097	49,247	1,850
	その他有価証券評価差額金	17,793	15,466	2,327
	非支配株主持分	15,315	14,571	744
	負債・純資産合計	141,791	138,114	3,677

• 投資有価証券の時価評価影響

• 約定弁済による減

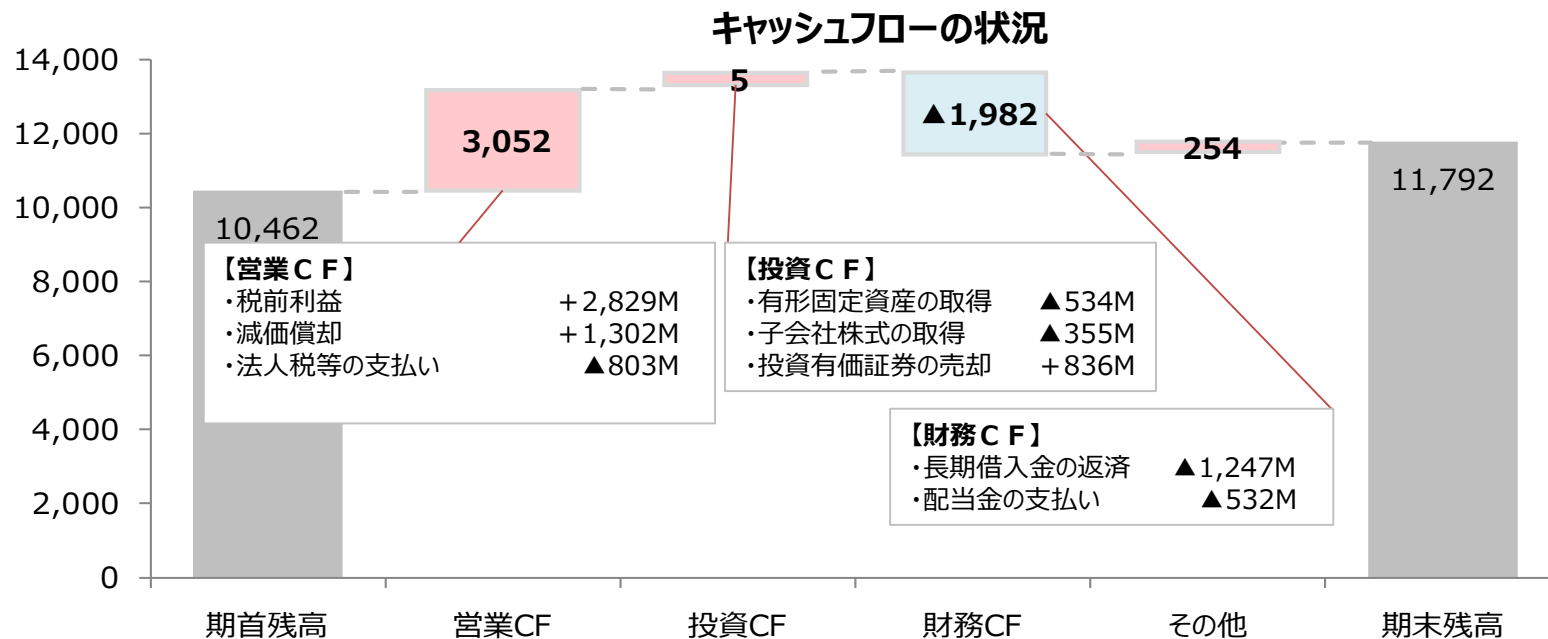
• トーアエイコーでの希望退職による減

• 当期純利益計上による増

# 連結キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)	2023.1-6実績	2022.1-6実績
現金及び現金同等物の期首残高	10,462	10,813
営業活動によるキャッシュ・フロー	<b>3,052</b>	830
投資活動によるキャッシュ・フロー	<b>5</b>	1,103
財務活動によるキャッシュ・フロー	<b>▲ 1,982</b>	<b>▲ 1,868</b>
現金及び現金同等物の増減額	<b>1,075</b>	66
その他 (※)	<b>254</b>	-
現金及び現金同等物の期末残高	<b>11,792</b>	10,880

(※)：連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額



## 2. 2023年12月期 通期業績予想



(単位：百万円)	2023予想	2022実績	前期増減
	A	B	A-B
売上高	<b>38,500</b>	34,274	4,226
営業利益	<b>2,850</b>	1,369	1,481
営業利益率	<b>7.4%</b>	4.0%	3.4pt
経常利益	<b>4,000</b>	2,582	1,418
親会社株主に帰属する当期純利益	<b>2,600</b>	2,817	▲ 217

(単位：百万円)	2023通期見込		2022実績		前期増減	
	A		B		A-B	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
不動産事業	<b>10,400</b>	<b>3,650</b>	10,415	3,946	▲ 15	▲ 296
医薬品事業	<b>13,400</b>	<b>100</b>	10,128	▲ 1,940	3,272	2,040
機械関連事業	<b>5,800</b>	▲ <b>300</b>	5,187	▲ 275	613	▲ 25
繊維事業	<b>7,400</b>	<b>450</b>	7,045	443	355	7
その他	<b>1,500</b>	<b>150</b>	1,497	150	3	0
調整額	-	▲ <b>1,200</b>	-	▲ 955	-	▲ 245
合計	<b>38,500</b>	<b>2,850</b>	34,274	1,369	4,226	1,481

### **3. セグメント毎の重点課題**

## ■ 上期の状況について

薬 価 改 定	◆日本国内における薬価改定により売価下落。
新薬の販売状況	◆トルバプタン（7.5mg製剤：22年9月発売、15mg製剤：22年12月発売）
開 発 状 況	<p>◆CNT-01（希少疾病用医薬品/中性脂肪蓄積心筋血管症治療薬） 【国内第Ⅱb/Ⅲ相臨床試験】</p> <p>◆ビソノ®テープの中国展開（経皮吸収型・β1遮断剤）【第Ⅲ相臨床試験】</p>
<p>その他 取り組み事項</p>	<p>◆CNT-01（希少疾病医薬品）診断数の最大化に向けた取り組みの実施 （専門チームを立ち上げ、希少疾病の啓発活動等を実施）</p> <p>◆自販化体制後の状況について （トップラインへの影響は少なく堅調推移。コスト削減効果が発生）</p> <p>◆希望退職者の募集を実施。 （募集50名程度に対して、61名の応募。対象者は6月末退職）</p> <p>◆社内体制の見直し （営業支店の統廃合、営業拠点等の適正化検討、希望退職実施後の人員配置）</p>

### ■ 実用衣料事業について

**本年5月に、当社衣料品事業室と、連結子会社であるオグランジャパン(株)を統合。**

**両社の強みを結集し、足元の取組強化と、新規商品の開発を推進。**

- ◆ 新規の販売チャネルの開拓による機能性インナー（アクティブシニア向け、フェムテック等）の展開拡大。
- ◆ 当社が保有していた「素材・機能性」に関する知見を活かし、新たな商品開発を推進。

### ■ 機能性繊維について

**原料価格、電力料金やガス料金の高騰影響は継続しているものの、**

**売上増に加えて、製品販売価格への転嫁も実現し、業績は堅調に推移。**

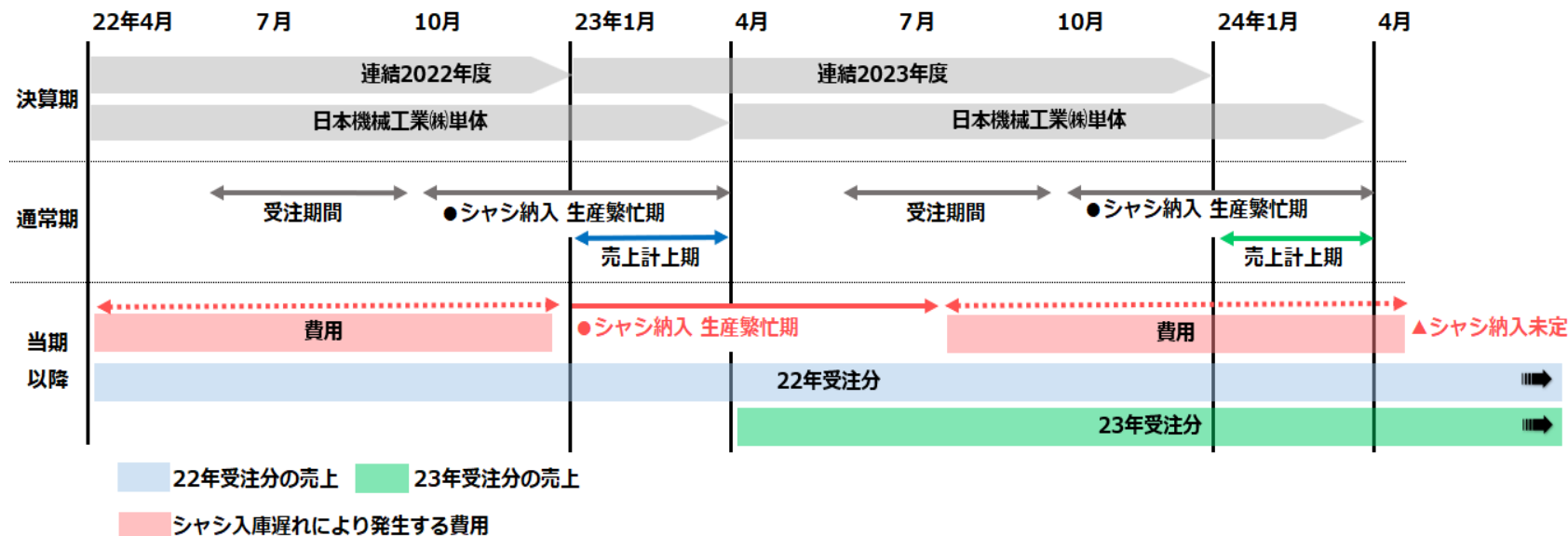
#### ◆ 主力繊維の業況

耐熱性繊維：自動車/航空機用途の海外市場での売上伸長

水溶性繊維：自動車内装用途の販売が堅調に推移

- ◆ さらなる事業成長に合わせて、生産能力の増強を計画。

## ■ シャシ在庫遅れによる売上時期の繰越



## ■ 構造改革

生産効率化を図るための施策	売上拡大に繋げるための施策
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 閑散期に先行・見込生産を行うことにより、繁忙期の超過工数を削減し、生産性の向上を図る。</li> <li>◆ 車型の集約化・標準化により、原価低減を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ シャシ・原材料費・エネルギーコスト等の動向を注視し、原価管理を行う。</li> <li>◆ 販路（直販/代理店）や販売方式の分析を精緻化する。</li> </ul>
<p>▼</p> <p>計画通りに進捗</p>	<p>▼</p> <p>戦略的な価格設定を行う</p>

## ■ 業況について

**不動産事業は前期対増収増益。コクーンシティ、東京スクエアガーデン等堅調に推移。**

- ◆コクーンシティについては、新型コロナウイルス感染症の行動制限の全面的な解除等を背景に、着実に来館者数、テナント売上を伸ばしたこと等により、賃料収入が増加。
- ◆その他、東京スクエアガーデン等の不動産についても、売上、営業利益ともに前期を上回り堅調に推移。

## ■ 今後の開発について

**さいたま新都心をはじめとするグループ全体の不動産の活用に向けて**

- ◆さいたま新都心は、社有地周辺のマンション、オフィス開発が進み、2031年度には現バスターミナル敷地へのさいたま市役所の移転が計画。  
建築コストや需要の不透明性等開発を取り巻く環境は見通しにくい状況が続いているが、マーケットのポテンシャルを活かすべく、当社開発を計画。
- ◆その他の既存不動産については、引き続き構造改革の結果生じた不動産（グループ不動産含む）を活用し、安定収益化を図る。

## ■ 取り組み経過と今後の方針

### カタクラ・クロステクノロジー



### 1本からのお庭サービス ガーデンエクスプレス®



◆先般、IT事業を営む『(株)カタクラ・クロステクノロジー（以下KXT社）』および  
植栽事業を営む『(株)ガーデンエクスプレス（以下GE社）』の2社を取得。

◆両社を取得した主要な狙いは以下のとおり。

KXT社：成長領域であることに加え、将来的には当社中核事業である不動産事業のDX化等

GE社：不動産周辺ビジネスの強化

▶シナジーを最大化させ、グループ全体のさらなる企業価値の向上を目指す。

◆今後においても、中長期的な企業成長を見据えつつ、

個別の案件内容を精査しながら、慎重かつ前向きに検討を重ねる方針。

## 人事制度・処遇



## 人材育成



## 職場環境



## 企業風土



### 2019年～

#### ◆人事制度・処遇

- ・スライド勤務制度、時間有休制度
- ・連続休暇取得推奨
- ・人事処遇制度改定
- ・表彰制度改定

#### ◆職場環境

- ・サテライトオフィスの開設、社内ミーティングスペース増設

#### ◆人材育成

- ・階層別研修、管理職研修

### 2020年（コロナ禍）～

#### ◆人事制度・処遇

- ・在宅勤務制度
- ・メンター制度
- ・新卒初任給2年連続引き上げ
- ・中途採用の強化

#### ◆職場環境

- ・業務集中スペース新設
- ・服装自由化

#### ◆人材育成

- ・コミュニケーション支援ツール導入
- ・内部統制研修
- ・経営層向け・指導担当者研修

### 新たな時代に向けて

#### 変化

- ・当社を取り巻く環境
- ・人々の価値観

#### 活動・施策

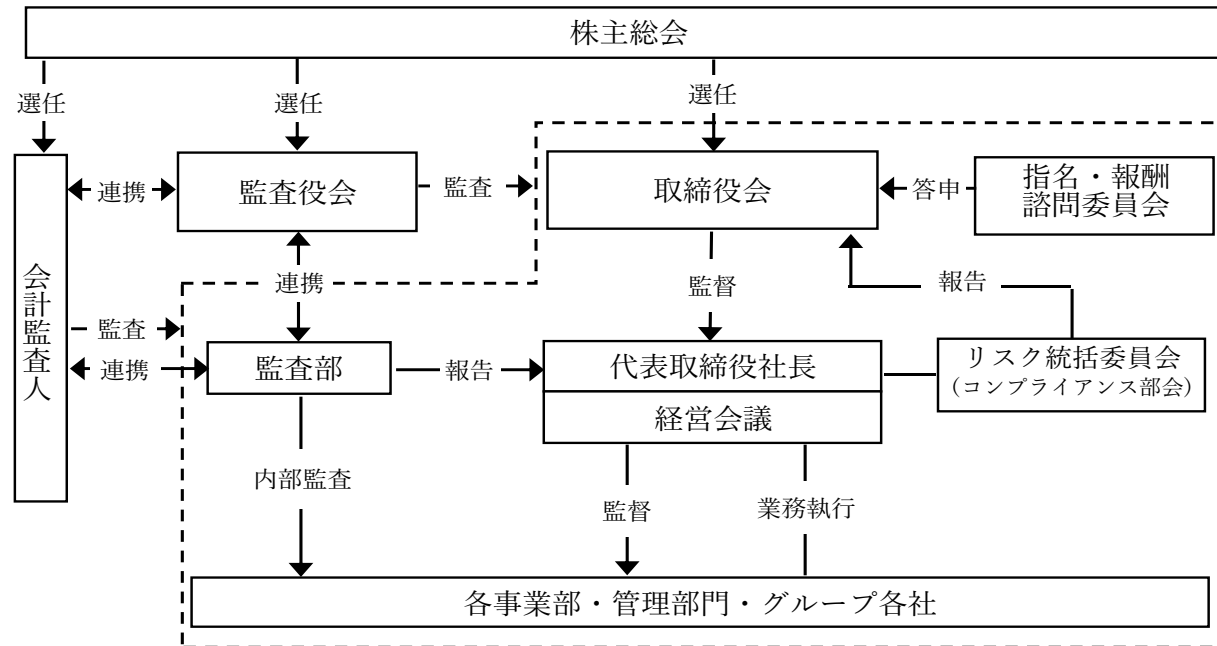
- ・組織風土や文化、働く人々の傾向や特性を振り返る機会の創出
- ・専門性の高い人材の中途採用強化
- ・教育機会の創出（継続）

#### 目指す姿

規律がありながらも多様性を認め合える組織を目指すことで、更なる企業価値の向上に繋げる



## ■ ガバナンス体制について

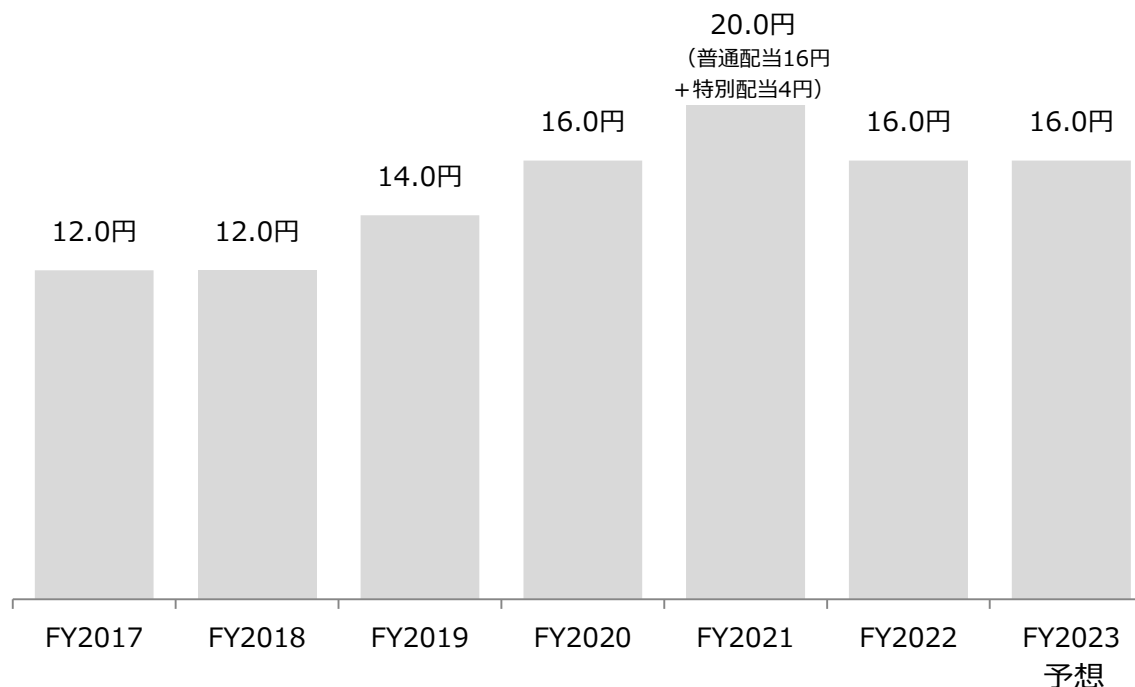


コンプライアンスの向上	リスクマネジメントの強化
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コンプライアンスプログラムによるPDCA活動の推進</li> <li>◆コンプライアンス意識調査の内容拡充や、通報制度の周知活動によるモニタリング体制の充実</li> <li>◆内部統制研修の充実によるコンプライアンス意識の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「リスク統括委員会」を通じたグループ全体のリスク管理体制の整備</li> <li>◆グループ各社の事業特性を踏まえた、未然防止策の実施</li> <li>◆リスク管理マニュアルに基づくリスク発生時の即時報告と再発防止策立案のPDCAの実践</li> </ul>

## 4. 株主還元について

## <利益配分の方針>

- 当社は、株主の皆様への利益還元を、経営上重要な政策の一つに位置付けております。
- 利益の配分については、安定配当の実施を基本とし、業績や今後の事業展開、内部留保の水準及び配当性向等を総合的に勘案のうえ、配当を行うこととしております。



純利益 (百万円)	1,224	1,283	1,732	2,871	4,953	2,817	2,600
1株当たり当期純利益 (円)	34.83	36.56	49.42	82.71	147.56	84.91	78.42
配当性向 (%)	34.5%	32.8%	28.3%	19.3%	13.6%	18.8%	20.4%